



ある日、目の不自由な90代の男性の世話をする中で男性が天理教の信者であることが分かった。聞けば、3歳から徐々に目が見えな

（文中、敬称略）

おふでさき

神のからだやしやんしてみよ (三号 40・135)

黃登洲 西高雄教會長

一連の議論について考えるとき、親神様が元初まりはつまりにおいて、この世と人間をお造りくださった、何と自由のない身の内をお貸しくだされたばかりでなく、農作物をはじめ、身の内の養いとなる一切のものをお恵みくださったる温かい。とともに、食前と食後に「いただきます」「ごちそうさま」と手を合わせるこのことの意味を、あらためて胸に刻みたい。

(西)

(西)

しかし、日本語が堪能な両親や信者さんとは違って日本語が理解できないいうに、中国語に関する教理的な書物が乏しかった時代ということもあって、天理教に対しては「日本の宗教」という認識しなく、何も知らないに等しかった。

その後、天理大学別

文化に慣れるのに苦労する中で不足し、ついには身上のお手引きを頂いて、急性肝炎で入院することになった。

そのとき、大教会の先生のお話を聴く中で出合ったのが掲出のお歌である。

先生は、人間の体をはじめ、世界の万物はすべて親神様によって

造られたものである」と、親神様に喜んでいただけるように、感謝の気持ちで毎日を通る大切さをお諭しくださった。

お話を聴いて、不足の日々を送っていたことを反省した私は、道一条になる心定めをした。すると、鮮やかなご守護を頂戴したのである。

以来、このお歌は、私が最初に覚えた「おふでさき」の一首として、信仰の原動力とな

の心で通らせていただ
くよう努めている。

自教会では、朝づと
めの際に日本語と中国
語で交互に「おふでさ
き」を拝読し、*を*をや
の言葉に親しむ毎日
を幸せに感じている。

今後さらにたくさん
の台湾の若者に「おふ
でさき」に親しみ、理
解してもらうためにも、
おぢばでお仕込みいた
だいたことを台湾で実
践し、世界たすけの御
用のうえに歩みを進め
たい。

古市 俊郎
福之泉分教会長
産業カウンセラ―

●あて先＝〒632-8686 天理支店私書箱3
●ファクス＝0743-62-0290 ●Eメール＝